植物「アゲハ蝶の観察から」

アゲハ蝶は何の葉っぱを食べているの？

元気でね！
今までありがとう。

たくさん食べてるね！
この葉っぱみかんの
においがするよ！

【振り返り】
しばらくして幼虫が蛹になるといつ孵化するか心待ちにする様子が見られた。
蝶が孵化すると、見つけるなり嬉しそうに保育者に伝えていた。「ちょうちょどうしようか？」と保育者が尋ねると、「ここだと狭くて可哀想だからお空に返してあげよう。」という意見が出た。蝶を返すと、「元気でね、ありがとう。」と大空に飛んでいく蝶に手を振り最後まで見届けていた。小さな生き物に対しての優しい気持ちが芽生えていることを感じた。
また、幼虫の凄まじい食欲を目の当たりにし、美味しい葉っぱをたくさん用意してあげたいという子ども達の思いから柚子の木を植えることになった。小さな命を慈しむ気持ちが環境を整えようという主体的な行動へとつながった。これからも子ども達のやりたい気持ちを大切にし、形にしていく援助を考えていきたい。

【記録】
・朝登園すると、幼虫の様子を一番に見に行く姿が見られた。糞を片付けたり、新鮮な葉っぱに移したり、世話を続けていく中で、幼虫がたくさんの葉を食べることや葉からみかんの匂いがすることなどを発見した。
・他クラスの園児も年長組に来て観察を夢中でしている姿が見られるようになった。年長組に来る楽しみの一つになり、異年齢児との交流も深めることができた。
・図鑑をみてアゲハ蝶の幼虫が柑橘系の葉しか食べないことを知った。近くの公園や散歩の道中に柑橘系の木を探すようになったが、なかなか見つからない。「幼虫のごはんがこのままだとなくなっちゃう。」どうしようかクラスの皆で話し合う機会を設けた。
・「保育園に木を植えたらどう？」「いいね！」「そうしよう」子ども達の意見からアゲハ蝶のために柚子の木を植えることになった。

【環境設定】
・虫探し→『虫眼鏡』を公園に持っていき、草むらをじっと見つめ虫探しを楽しんでいた。
・アリ→『アリの飼育セット』が届くとアリ探しが始まり、小さなアリを捕まえるために皆で協力する姿が見られた。アリが巣を作っていく様子を観察し、一箇所にアリが集中して留まる様子をみて、「アリが会議しているね」と想像力を膨らませ豊かな表現をする姿も見られた。
・ダンゴムシ→図鑑でダンゴムシが何を食べるのか調べ、様々なおやつの余り物を虫かごに入れて食べるかどうか実験していた。また「ダンゴムシのおうちをつくろう」と友達と話し合い、廃材を使って製作が始まった。友達とイメージを共有しながらアイデアを出し合って製作を楽しむ姿があった。

アリやダンゴムシの飼育を通して身近な虫への興味関心が高まった。アゲハ蝶の幼虫を見せると子ども達の関心が集まり、飼育することになった。

おいしい葉っぱを
たくさん
食べさせてあげたい！